学校番号	207

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学ＩＡ充実	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	「攻略！共通テスト Pick Up 数学Ⅰ＋A、Ⅱ＋B＋C」（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

（１）　数ＩＡ充実を学ぶにあたって

・この授業では、これまでに学んだ知識を整理するとともに、大学入学共通テストにおける「数学Ⅰ、数学 A」のための実践的な演習を行います。

・共通テストにおいては、数学的な問題解決の過程が重視され、目的に応じて図表やグラフなどを活用しながら、一定の手順に沿って数学的に処理する力が求められます。また、日常の事象や発展的な内容に対し、既知の知識や技能を活用しながら解決していく過程を大切にしましょう。

（２）　授業の受け方

・初めて見る問題や、今までより深い思考力・判断力・表現力を問われる問題に対応する経験を積むことを目的としています。そのため、１回１回の授業に真剣に取り組むことが、これらの力をつけるための近道です。

・疑問点を放置しないことが大切です。遠慮なく先生に質問しましょう。授業で聞き逃した部分、何回考えても分からない問題など、基本事項についてはすぐに解決することをお勧めします。授業中に積極的に質問することも大歓迎。授業中にわからないところを質問することは、自分だけでなく周りの理解にもつながります。

（３）　家庭学習

・基本的な公式や定理については、授業の前に確認しておきましょう。教科書の例題で問われる内容は簡単だと侮ってはいけません。なぜそのように考えるのか、思考の流れをしっかりと理解することが、発展的な内容に取り組むための土台となります。各単元のはじめに、教科書や参考書の該当箇所を読み返しておくとよいでしょう。

・苦手分野は早めに補強することが大切です。これまでに取り組んできた問題集や参考書を用いて、集中的にその分野の復習に取り組みましょう。何度も繰り返し取り組むことを心がけてください。そして、解答を見なくても自力ですべてが解けるようになることが大切です。
学校で用意された教科書・問題集・参考書をしっかり理解すれば受験にも十分対応できます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
2 年次までに学んだ事柄について、基本的概念や原理・法則についての理解を深め、基礎的な知識・技能を確立する。

【思考力、判断力、表現力等】
事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだし、一定の手順に沿って数学的に処理することができる。

【学びに向かう力、人間性等】
数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度や創造性を発展させる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	これまでに学んだ事柄についての基本的な概念や原理・法則を体系的に再構築する。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を確立する。	現実に起こる事象を数学化することに慣れる。長い文章や会話から数学的な内容を読み取り、目的に応じて数式や図・表・グラフを用いて処理する方法を身につける。問題解決の過程や結果を振り返り、得られた結果を意味づけたり活用したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとする態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期		1．数と式・2次方程式	a:乗法公式を理解し、展開や因数分解ができる。平方根の性質を理解し、分母を有理化したり二重根号を外したりできる。 b:基本対称式だけを用いて、対称式を表現できる。絶対値記号について、適切に処理できる。 c:文字定数を含む方程式や不等式について、場合分けを行おうとする。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート
		2．2次関数	a:2 次不等式を解くことができる。 b:グラフの平行移動や対称移動を、一般化して考えることができる。2 次関数の最大値や最小値を、グラフを用いて考察できる。 c:方程式や不等式の解と、グラフの関係に関心を持つ。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート

		3．図形と計量	a:三角比の定義や相互関係を理解している。 b:正弦定理や余弦定理を適切に活用し、様々な平面図形を計量できる。 c:三角比を用いて空間図形の計量ができることに関心をもつ。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート
		4．集合と論証	a: 集合や論証に関する記号や表記について正確に理解している。 b: ベン図や数直線を用いて複数の集合の関係を理解することができる。 c: 命題の真偽の判定に、反例の有無や集合の包含関係を活用しようとする。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート
2学期		5．データの分析	a:様々な代表値について理解している。 b:分散・標準偏差・相関係数などの値から、データの散らばりや相関関係を判断できる。 c:与えられたデータを図表化したり、種々の値を求めることで、そのデータの特性を分析しようとする。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート
		6．場合の数と確率	a: 順列や組合せなどの基本的な計算を正確に処理できる。 b: 様々な事象を単純化し、数学の対象とすることができる。事象をいくつかの排反事象に過不足なく分類して表現できる。 c: 期待値を用いて、賞金や得点を評価しようとする。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート
		7．図形の性質	a: 平面図形の種々の定理を理解し、辺の長さや比、角の大きさなどを求めることができる。 b: 三角形の五心の性質を理解し、活用できる。 c: 4 点が同一円周上にある条件を活用しようとする。	定期考査 提出物 小テスト	定期考査 提出物 小テスト	提出物 観察 ワークシート

3 学 期		問題演習	a:これまでに学習した基本的な知識・技能を正確に活用できる。 b:具体的な問題設定から事象を数学化し、適切に処理できる。 c:数学が現実の事象に活用できることに関心を持つ。	提出物	提出物	提出物 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度